



全国学力テスト分析
吹田市立豊津西中学校
令和 5(2023)年
12月11日 発行

学校目標
教育目標

《人格の形成をめざす》
《社会人としての資質を最大限に発揮させる》
《心身ともに健康な国民の育成をめざす》

2023年度全国学力学習状況調査について

☆教科に関する調査結果分析

国語

＜全国値より高く、引き続き伸ばしていきたいこと＞

○問題形式より

選択式の問題については、全ての受験者がほとんどの問題に解答をしている。

○評価の観点より

「思考・判断・表現」の観点では自分の考えを表現すること一定の成果が見られ、多くの生徒が自分の考えをもとに根拠を述べる事ができた。

＜全国値より低く課題となること＞

○問題形式より

短答式の問題において全国より下回っているものがある。

○評価の観点より

「思考・判断・表現」の領域のうち、特に「書く」領域の問題で無解答率が高い。

＜課題にむけて＞

基礎的な知識の補充が必要である。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すルールや、古文に対する知識を増やしていかなければならない。また、記入条件が多い問題では条件に不十分な解答を記入する生徒が多いことから、短い文に要点をまとめるなどの記述の練習が必要である。そのために、基礎を振り返る時間を作り、古語の知識だけでなく、様々なジャンルの基礎知識振り返り、知識の定着をしていく。また、作文練習や資料から読み取る活動を増やし、条件に応じて文章を書く練習を繰り返し行うようにしていきたい。

国語は学習の根幹にあたるので、言語を正確に使う能力を日々の生活から養って行くことが大切である。

数学

＜全国値より大幅に高く、引き続き伸ばしていきたいこと＞

○「数と式」

「結論が成り立つための前提を、説明することができる」割合は、全国値を上回った。

○「図形」

「ある事柄が成り立つことを構成に基づいて証明することができる」割合は、全国値を上回った。

○「データの活用」

「四分位範囲の意味を理解している」割合は全国値を上回った。

＜全国値より低く課題となること＞

○「データの活用」

「累積度数の意味を理解している。」割合は、全国値を下回った。

＜課題にむけて＞

・累積度数に関する問題は全国の正答率を下回ったものの、それ以外のすべての問題で全国値を上回った。

・1学年で学習した「データの活用」は、既習内容が繰り返し出てくることがないので、正答率が下がったのではないかと推測する。反復練習の機会として、実力テストや長期休みの課題などで、1、2年の「データの活用」の内容を振り返るきっかけを作り、定期的に問題に触れることで、学習内容を理解し、傾向を読み取ることで批判的に考察し判断する力をつけていきたい。また、その過程で内容の必要性と意味の理解を深めていきたい。

・説明や証明の問題で正答率が全国値を大きく上回った。今後も引き続き、ペアやグループで自分なりの言葉で説明する機会をつくるなどの活動をする中で、なぜを問う意識も上げていきたい。

・授業内容やテストを工夫することで、数学のきまりや定理を日常の場面とつなげて考える機会をより充実させていきたい。また、数学科の中だけでなく、理科や技術科など他教科や、総合的な学習の時間との共通項を見つけることで、年間のカリキュラムの中に、数学を活用できる場を設定することで、身近に数学を感じることができるようなきっかけを増やしたい。そうすることで、数学が生徒にとって進路を切り拓く力の一助になることを願う。

英語

＜全国値より高く、引き続き伸ばしていきたいこと＞

○学習指導要領の領域より

「聞くこと」の領域の問題のうち、特に“情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる”趣旨の問題の正答率は、全国値を大きく上回った。

「読むこと」の領域の問題のうち、特に“文と文の関係を正確に読み取ることができるかみる”趣旨の問題の正答率は、全国値を上回った。

「話すこと [やり取り]」の領域の問題のうち、特に“日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる能力を身に着けているかどうかをみる”趣旨の問題の正答率は、全国値を上回った。

「書くこと」の領域の問題のうち、特に“未来表現(be going to)の肯定文を正確に書くことができるかをみる”趣旨の問題の正答率は、全国値を上回った。

○評価の観点より

「知識・技能」の問題に関しては全問、「思考・判断・表現」の問題に関しては1問を除いて、全国値を上回る結果となった。

〈全国値より低く課題となること〉

○学習指導要領の領域より

「聞くこと」の領域の問題のうち、“日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる”趣旨の問題の正答率は、全問題の中で唯一、全国値を下回った。

「書くこと」の領域の問題のうち、“社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかみる”、“相手の行動を促す”という言動の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかみる”趣旨の問題で無回答率が高かった。

〈課題に向けて〉

・すべての問題を通して、全国値をほぼすべて上回る内容でしたが、依然として基礎的な内容(文法・英単語)に関しては継続的な復習の必要性を感じた。授業における取り組みとしては、英単語習得に向けて「小テスト」の実施、文法の定着に向けて「単元末テスト」の実施を行っていきたい。

・無回答率が高かった「書くこと」の領域の問題の対策として、自分の身の回りのことや、日常生活での様々なシチュエーションに対して、どのように英語で表現するかを、ライティングやスピーキング活動を通して定着を図っていききたい。また、添削に関してAETと協力し実用的な英語表現の定着も図りながら、無回答率減少につなげていきたい。

生徒質問紙に関する調査結果分析

達成感、規範意識、自己有用感など

「自分には、よいところがあると思う」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」、「将来の夢や目標を持っている」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。」等の質問に対する肯定的な回答率が全国値をかなり上回った。

「将来の夢や目標を持っている」、「友達関係に満足している」、「人が困っているときは、進んで助けている」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」等の質問に対する肯定的な回答率も全国値を上回った。

「学校に行くのは楽しいと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」等の質問に対しても肯定的な回答率が高かった。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については前年度全国値を下回っていたが、本年度は肯定的な回答率が全国値を上回った。

基本的生活習慣など

「朝食を毎日食べている」の回答率は、前年度に続き、全国値をやや下回った。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ています」、「毎日、同じくらいの時刻に起きています」については、全国値と同程度の回答率であった。

「読書は好き」の回答率が全国値より高いが、「新聞をほとんど、または全く読まない」の回答が多かった。これは全国値でも同じ傾向がみられる。

学習習慣、学習環境など

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」については、「よくしている」、「ときどきしている」の回答が全国値と同程度の回答率であった。

「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」については、「2時間以上」の回答が全国値を上回っているが、「30分より少ない、全くしない」の回答が全国値と同程度であった。

ICTを活用した学習状況

「コンピュータなどのICT機器を、授業でどの程度使用したか」について、「ほぼ毎日使用している」・「週3回以上」の回答が全国値より大幅に上回った。「授業時間以外に、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)」については、「30分より少ない」・「全く使っていない」が、全国値と同様に多数を占めた。

今後の取組

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、これまでの指導を活かしつつ、次のような取組みを進めます。

- 各教科の基礎学力の向上のために授業を通して取り組んでいきます。
各教科の見方・考え方(各教科で使われる言葉やキーワード、価値や物事のとらえ方や考え方)を今まで以上に働かせながら学習することで、それらを使って自分の考えを整理したり組み立てたりして、自分の考えを言葉で表現できるような力をつけていきます。
- 習熟度別授業や少人数授業など、個に応じたきめ細かな指導を推進します。
- シンキングツールやICTを有効に活用した指導方法の研究を進めます。
- 生徒会、学級委員会で「月目標」を定め、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取組めるよう、環境を整えます。
- 授業、学校行事、その他、学校教育活動全体を通じて、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団づくりを目指します。
- 「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考えさせます。
- 朝読書を中心に、読書活動の充実を図ります。